第４講　宗教史

1　古墳～天平文化の宗教

①儒教・仏教の伝来と神祇信仰（５～６世紀）⇒古墳文化

A　儒教の伝来

６世紀に百済から五経博士が渡来。

☆５世紀に王仁により『論語』は伝わっていた。

B　**仏教の伝来⇒大乗仏教**〔北伝仏教〕

６世紀前半，司馬達等（鞍作鳥の祖父）ら一部の渡来人の間で私的に信仰されていたが，公的には百済の聖明王から欽明天皇へと伝えられた。

☆**戊午説（538年，『上宮聖徳法王帝説』『元興寺縁起』）と壬申説（552年，『日本書紀』）があり，前者の説が有力。**

☆**蘇我稲目**（崇仏派・大臣）と**物部尾輿**（廃仏派・大連）の間で**崇仏論争**が勃発，対立は子の**蘇我馬子**と**物部守屋**に引き継がれる。

C　道教の伝来

老荘思想や神仙思想を取り入れ，不老長寿の方術・養生術を行う。

☆５～６世紀に伝来し，７世紀後半の白鳳文化期に流行した中国の民族宗教。

②日本文化の形成（５～６世紀）⇒古墳文化

A　**農耕儀礼**の成立

豊作を祈願する春の**祈年祭**，収穫を感謝する秋の**新嘗祭**（天皇即位の年は**大嘗祭**）が行われる。

B　呪術的風習の進展

禊・祓（汚れをはらい災いを免れる），**太占の法**（占い），**盟神探湯**（熱湯に手を入れる裁判）などが行われる。

☆太占の法は時代が下ると廃れ，亀卜が占いの主流に。

③厩戸皇子の仏教導入（６世紀末～７世紀初め）⇒飛鳥文化

A　**厩戸皇子**

蘇我氏の血を引く皇族（用明天皇の子）。蘇我馬子が擁立した初の女帝，叔母にあたる**推古天皇の摂政・皇太子**として，冠位十二階・憲法十七条制定や遣隋使派遣などを行う。

☆奈良・平安時代にかけて仏教が定着すると，**聖徳太子**という尊称が贈られ，個人崇拝の対象となった。

B　仏教興隆の詔（594年）

物部氏を滅ぼした蘇我馬子・聖徳太子の影響下で，推古天皇が出したもの。これにより崇仏論争は決着し，朝廷は正式に仏教を受容することとなった。

C　寺院の建立

四天王寺（摂津国）・**法隆寺〔斑鳩寺〕**・中宮寺（大和国）など。

☆**蘇我馬子**は，初の本格的寺院である**法興寺〔飛鳥寺〕**を**氏寺**として建立している。

D　『**三経義疏**』の執筆

法華経・勝鬘経・維摩経という３つの経典の注釈書。

☆聖徳太子の仏教の師は高句麗から渡来した恵慈。

☆聖徳太子は，自らの死に臨んで「**世間虚仮，唯仏是真**」という境地に至った。

E　**憲法十七条**の制定→初の成文法

日本古来の**和**の精神に，**儒教・法家の思想**とともに**仏教の精神**を組み込んだ。

☆第一条「**和**を以って貴しとなし，忤ふることなきを宗とせよ。……」

第二条「篤く**三宝**を敬へ。三宝とは，**仏・法・僧**なり。……」

第十条「……われ必ずしも聖にあらず。かれ必ずしも愚にあらず。ともにこれ**凡夫**のみ。」

④国家仏教の成立と神祇制度の整備（７世紀後半）⇒白鳳文化

飛鳥四大寺（**大官大寺**，飛鳥寺〔法興寺〕，川原寺〔弘福寺〕，**薬師寺**）などの**官寺**が設置され，僧綱制や僧尼令による統制も進む。地方豪族も競って寺院を建立した。

☆天皇制の確立に伴い，伊勢神宮を中心とする神祇制度の整備も同時に行われた。

⑤鎮護国家仏教の全盛（８世紀）⇒天平(てんぴょう)文化

仏教は，ヤマト政権が全国を統一して律令国家になると，その支配に利用された。仏教の力で国家を安らかに治めようとする**鎮護国家**思想や，病気平癒(へいゆ)・雨乞(あまご)いなど除災招福(じょさいしょうふく)の**現世利益(げんぜりやく)**が重視され，衆生の救済という本来の大乗仏教の思想は軽視された（＝国家仏教）。

☆**金光明経(こんこうみょうきょう)〔金光明最勝王経(さいしょうおう)〕・法華経(ほっけきょう)〔妙法蓮華経(みょうほうれんげきょう)〕**・仁王経(にんのうきょう)の「護国三（部）経」を重視。

A　仏教保護政策⇒僧尼令(そうにりょう)により統制

741年　国分寺建立(こんりゅう)の詔

743年　大仏〔盧舎那仏(るしゃなぶつ)〕造立(ぞうりゅう)の詔

☆行基(ぎょうき)や国中公麻呂(くになかのきみまろ)らが協力。

745年　行基を大僧正(だいそうじょう)とする

752年　東大寺大仏開眼供養会(かいげんくようえ)

☆**菩提僊那(ぼだいせんな)**（インド僧）が開眼師，**仏哲(ぶってつ)**（林邑(りんゆう)僧）が雅楽(ががく)師として出席。

753年　鑑真(がんじん)来日

☆翌年平城京へ。

765年　道鏡(どうきょう)が太政大臣禅師(ぜんじ)となる

766年　道鏡が法王(ほうおう)となる

B　**南都六宗(なんとろくしゅう)⇒奈良仏教〔南都仏教〕**の６学派

三論宗(さんろん)（道慈(どうじ)ら），**成実宗(じょうじつ)**，**法相宗(ほっそう)**（義淵(ぎえん)・行基・玄昉(げんぼう)・道鏡ら），**倶舎宗(くしゃ)**，**華厳宗(けごん)**（良弁(ろうべん)ら），**律宗(りっしゅう)**（鑑真(がんじん)ら）の**奈良仏教**六宗派。並行して学ぶこともでき，学問的性格が強い。

☆**教理(きょうり)研究の学派**なので，一つの寺院に複数の宗派が存在することもある。

C　南都七大寺(なんとしちだいじ)

元興寺(がんごうじ)，法隆寺，薬師寺，**東大寺**，**西大寺(さいだいじ)**，**大安寺(だいあんじ)**，**興福寺(こうふくじ)**（**藤原氏の氏寺(うじでら)**）の七寺院。

☆法隆寺のかわりに唐招提寺(とうしょうだいじ)とする場合もある。

D　**鑑真**の来日（753年，淡海三船(おうみのみふね)『唐大和上東征伝(とうだいわじょうとうせいでん)』）より

入唐(にっとう)した普照(ふしょう)と栄叡(えいえい)の要請(ようせい)により，失明(しつめい)しながらも５度の失敗を乗り越え渡来。戒律(かいりつ)を伝え東大寺に戒壇院(かいだんいん)を建立し，聖武太上天皇・光明皇太后・孝謙天皇らに授戒(じゅかい)。のち**唐招提寺(とうしょうだいじ)**を創建(そうけん)し，そこで没した。

☆東大寺（大和国），薬師寺（下野国(しもつけのくに)），観世音寺(かんぜおんじ)（筑前国(ちくぜんのくに)）の戒壇を「**天下(てんか)〔本朝〕三戒壇(さんかいだん)**」と呼ぶ。

E　社会事業

あ　**行基**⇒745年に大僧正となるが大仏完成前に死去

民間布教，架橋・治水など土木工事の指導，貧民救済施設である布施屋の設置など。

い　**光明皇后**

悲田院・**施薬院**など，貧民・病人救済施設の設置。

う　和気広虫〔法均尼〕⇒称徳天皇の側近で和気清麻呂の姉

恵美押勝の乱(764年)後，孤児を養育。

F　結果

あ　寺院の濫造による国家財政の窮乏と人民の疲弊

い　**仏教の国家保護による僧侶の政治介入**

☆**玄昉・道鏡など。**

う　教団内部における宗教活動の低迷と退廃

☆仏教が社会に根付く過程では，鎮護国家だけでなく**現世利益**を求める手段とされたり，**神仏習合**の思想が起こったりもした。

え　**造寺造仏の盛行による天平文化の創出**

２　平安時代の宗教

南都六宗〔奈良仏教〕のように経典を学ぶ一般的な**顕教**（けんぎょう）に対し，神秘の教えである**密教**色の強い新たな仏教が登場し，**信仰を中心とした一宗派の独立**が見られた。

☆平安新仏教（＝**天台宗・真言宗**）は，政治権力と結びついた奈良仏教に対し，**山岳仏教**として世俗を離れ，厳しい修行を通して新たな気風を生んだ。

①天台宗（てんだいしゅう）（９世紀前半〜）⇒弘仁（こうにん）・貞観（じょうがん）文化

A　**最澄**（さいちょう）**〔伝教大師〕**（でんぎょうだいし）

近江国（おうみのくに）の渡来人系の子に生まれる。804年の遣唐使に同行し，翌年の帰国後に**天台宗**を開き，桓武天皇の庇護（ひご）を受ける。

☆中心寺院は**比叡山延暦寺**（ひえいざんえんりゃくじ）**（近江国）**。主著は『**山家学生式**』（さんげがくしょうしき）『**顕戒論**』（けんかいろん）。

B　一乗（いちじょう）思想〔法華（ほっけ）一乗〕

最澄は，鎮護国家・現世利益にこだわる南都六宗を差別的と批判，大乗（だいじょう）仏教の代表的経典『**法華経**』の精神こそが真の教えだとし，総合宗派として仏の前における絶対平等を説いた。

☆一切衆生悉有仏性（いっさいしゅじょうしつうぶっしょう）（＝生あるものはすべて仏になる可能性がある）と主張し，仏になることを目指し修行することが，悟りを開く唯一の方法であるとした。

C　**大乗戒壇**（かいだん）の設立

最澄は，仏門に入る者へその資格（＝戒）を授ける戒壇を，大乗戒壇として延暦寺に設けることを朝廷に願い出た。

☆天下三戒壇（東大寺・薬師寺・観世音寺）をもつ南都六宗と鋭く対立したが，死の７日後に実現した。

D　**密教化の進展**

最澄の弟子であった**円仁**（えんにん）**〔慈覚大師〕**（じかく）（最古の日記『**入唐求法巡礼行記**』（にっとうぐほうじゅんれいこうき）の著者）や**円珍〔智証大師〕**（空海の甥）も唐に渡った。帰国後，彼らが天台宗の密教化を進め，**台密**（たいみつ）と呼ばれた。

☆円仁と円珍の死後，10世紀末から**延暦寺の山門派（＝円仁派）**，**園城寺**（おんじょうじ）**〔三井寺〕**（みいでら）**の寺門派（＝円珍派）**に分裂し，対立を深めた。

②真言宗（９世紀前半～）⇒弘仁・貞観文化

A　**空海〔弘法大師〕**

讃岐国（香川県）の地方豪族の子に生まれる。804年の遣唐使に同行し，２年後の帰国後に**真言宗**を開き，**嵯峨天皇の庇護を受ける**。中心寺院は**高野山金剛峰寺（紀伊国）**と，嵯峨天皇に賜った**教王護国寺〔東寺〕（京都）**。主著は『**三教指帰**』『十住心論』。

☆唐風書道の名手「三筆」の一人で，漢詩集『性霊集』や詩論『文鏡秘府論』も有名。初の庶民教育機関である**綜芸種智院**の設立や，修行時代は四国八十八カ所の遍路も行った。

B　**密教**

大日如来が自らの悟りを高弟に伝授した神秘の教えとされる。大日経を中心に三密の行（＝身で印契を結び，口で真言〔マントラ〕を唱え，意を集中する）を行い，その身のままで仏となる**即身成仏**を説く。

☆密教世界を具現化した図を**曼荼羅**という。

C　真言宗の隆盛

空海は，**加持祈禱**によって鎮護国家と現世利益を実現するといい，皇族・貴族の信頼を得た。南都六宗との関係も良好で，**東密**と呼ばれ隆盛した。

③神祇信仰の発達

A　御霊信仰の発生

非業の死を遂げた人物の霊（＝**怨霊**）をまつる**御霊会**が行われる。

☆神泉苑（早良親王を祀る初の御霊会が行われる），祇園社〔八坂神社〕，**北野天満宮〔北野神社〕**・大宰府天満宮（菅原道真を学問の神「天神」とする）など。

B　放生会の開始

捕獲しておいた虫・魚・動物などを山野河海に解き放ち自由にする。仏教の影響を受けて行われた。

④神仏習合の進展

A　**神仏習合**→神道と仏教の融合

奈良時代以降，天照大神や八幡神などの八百万神は，大日如来や阿弥陀如来などの仏が権（＝仮）の姿で現れた「**権現**」であるとの考えが出てきた。このような**仏教中心の神道との融合**を**本地垂迹説**といい，**神宮寺**の建立，神前読経の実施，寺院の境内に守護神を祀るなど，仏教と日本古来の神祇信仰との融合が進んだ。

B　**修験道**

白鳳文化期の**役小角**〔**役行者**〕に始まる古来の山岳崇拝と，新たな山岳仏教が融合。修験道の修行者を山伏という。

⑤末法思想と浄土信仰（10世紀後半〜）⇒国風文化

10世紀に入り，皇族・貴族による律令国家体制が衰退した。各地に武士が登場し戦乱が激しくなり，疫病や飢饉も起き続けると，**社会不安の増大**にともない現世での幸福をあきらめ，来世を信仰する仏教が流行した。

☆人々が頼みとする南都六宗や天台宗・真言宗の大寺院は，荘園の集積など世俗化が進んでいた。

A　**末法思想**

釈迦入滅後１千年間を**正法**（＝教・行・証ともに存在する），続く１千年間を**像法**（＝教・行のみ），その後１万年間を**末法**（教のみ）とし，日本では1052（永承７）年から末法の世に突入すると考えられた。

☆７世紀に中国の善導が大成した思想。教えを理解する人々の能力は次第に衰えていく，という仏教的歴史観に基づくもの。

B　**浄土信仰〔浄土教〕**

仏の教えのみが残り，修行の実践や悟りが得られない末法の世においては，現世利益よりも，来世で西方の**極楽浄土に往生**することが望まれた。

☆**念仏**「**南無阿弥陀仏**」を唱え，**阿弥陀如来**の救済にすがる。

C　**空也**〔**市聖・阿弥陀聖**〕（10世紀半ば）

寺院を拠点とせず全国の市井を歩き，経典が読めず自ら学ぶことができない人でも実践できる称名念仏（＝声に出して唱える）で救われることを説いた。

☆諸国巡歴後は京都に西光寺（のちの**六波羅蜜寺**）を創建。市を拠点に民衆に布教し，貧民や病人の世話などをした。

D　**源信**〔**恵心僧都**〕（10世紀後半）

985年に『**往生要集**』を著し**厭離穢土**・**欣求浄土**を説き，穢れた現世から離れて極楽浄土に生まれ変わることを勧めた。源信は，文字の読める皇族・貴族に対して称名念仏に加えて観想念仏（＝阿弥陀如来の姿を思い浮かべる）を勧めた。

☆『往生要集』は，渡宋した僧により中国にも持ち込まれ，広く読まれた。

E　**往生伝**（念仏の功徳で往生した人々の伝記集）の執筆

『**日本往生極楽記**』（**慶滋保胤**），『拾遺往生伝』（三善為康），『続本朝往生伝』（大江匡房）など。

F　**経塚**の流行

経典を書写し，**経筒**におさめ地中に埋める。藤原道長が法華経を埋納した金峰山経塚などが有名。

⑥院の仏教保護と浄土教文化の地方波及（12世紀）

A　**院の仏教保護**

院政を行う白河・鳥羽・後白河の３上皇は出家して法皇となり，造寺造仏（**六勝寺**）や寺社参詣（紀伊国の**高野詣**・**熊野詣**），盛大な法会などに執心した。

☆六勝寺は，平安京の東に建立された**法勝寺**（**白河天皇**），尊勝寺（堀河天皇），最勝寺（鳥羽天皇），円勝寺（待賢門院），成勝寺（崇徳天皇），延勝寺（近衛天皇）。

☆過剰な仏教保護は財政難を招き，成功が行われ売位・売官の風潮が流行するなど政治が腐敗。また，**僧兵**の横暴により社会不安が増大した。

B　**僧兵の横暴**

朝廷・院に対する**強訴**，国司との抗争，大寺院間の合戦などにより社会が混乱。皇族・貴族の無力さが露呈し，鎮圧を任された武士が中央に進出する契機となった。

あ　**興福寺〔南都〕**

春日神社の神木を掲げ強訴する**奈良法師**。

い　**延暦寺〔北嶺〕**⇒山門派

日吉神社の神輿を担ぎ強訴する山法師。

☆寺門派の**園城寺〔三井寺〕**の僧兵は**寺法師**という。

C　**浄土教文化の地方波及**

公的な位・役職をもたず，寺院に所属しない**聖〔聖人・上人〕**たちによる布教と，それを受け容れる地方武士の台頭により，中央の浄土教文化が地方に波及した。

３　鎌倉時代の宗教

初の武家政権である鎌倉幕府がつくられ，各種産業が発達し庶民が台頭した鎌倉時代には，新たな勢力である**武士・庶民の救済要求に応える教え**が必要となった。鎌倉新仏教の特色は，**易行**（いぎょう）・**選択**（せんじゃく）・**専修**（せんじゅ）の３つ。誰もが解りやすく，誰もが実践でき，誰もが救済される，すなわち大乗思想を徹底したものであった。

①浄土宗（12世紀後半～）⇒念仏宗・他力本願

A　**法然**（ほうねん）〔源空（げんくう）〕

美作国（みまさかのくに）（岡山県）の地方武士の子に生まれる。比叡山延暦寺で修行後，**浄土宗**を開く。中心寺院は**知恩院**（ちおんいん）**（京都）**。主著は『**選択本願念仏集**（せんじゃくほんがんねんぶつしゅう）』『一枚起請文（きしょうもん）』。

B　**専修念仏**

一切の修行・寄付行為などを否定し，ただ**念仏「南無阿弥陀仏」**を唱えることで女性・悪人も平等に救われると説いた。

☆戒律にこだわる奈良仏教に攻撃され，朝廷により土佐国（実際は讃岐国）に流罪となったが，のち許され帰京（＝承元（じょうげん）の法難）。

②浄土真宗〔一向宗（いっこうしゅう）〕（13世紀前半～）⇒念仏宗・他力本願

A　**親鸞**（しんらん）

京都の貴族の子に生まれる。比叡山延暦寺で修行後，法然の門を叩き，**浄土真宗〔一向宗〕**を開く。中心寺院は**東本願寺・西本願寺（京都）**。主著は『**教行信証**（きょうぎょうしんしょう）』。

☆のち弟子の**唯円**（ゆいえん）が『**歎異抄**（たんにしょう）』を残す。

B　報恩（ほうおん）感謝の念仏

念仏「南無阿弥陀仏」は往生の手段ではなく，すでに救われていることへの感謝として唱えるものとした。

☆その上で一向専修念仏を説く。

C　非僧非俗（ひそうひぞく）

師の法然に連座し越後国に流された後，関東や東海地方で自身を「僧と俗人の中間」として，戒律で禁止されていた肉食妻帯（にくじきさいたい）を肯定し，布教に努めた。妻は恵信尼（えしんに）。

☆親鸞は「愚禿（ぐとく）親鸞」と名乗るほど，凡夫（ぼんぷ）の自覚があった。

D　**悪人正機説**

「**善人なをもちて往生をとぐ，いはんや悪人をや**」(善人が往生できるなら，悪人はなおさら往生できる)。

☆凡夫の自覚をもつ人間を悪人とし，悪人こそが阿弥陀如来にひたすらすがることで救われると説いた。このこともあり，下級武士・農民に信者が多い。

E　**絶対他力・自然法爾**（じねんほうに）

親鸞は，往生に努力は関係なく，すべて阿弥陀仏の力とはからいであるから自然のままに任せるべき，と考えた。

F　**一向一揆**

親鸞の教えは，平易な**御文**（おふみ）〔**御文章**（ごぶんしょう）〕形式で布教した本願寺**８世蓮如**（れんにょ）(室町時代，越前国吉崎道場)や，10世証如（しょうにょ）(室町時代，山城国山科（やましな）本願寺)，**11世顕如**（けんにょ）(安土桃山時代，摂津国石山本願寺)へと引き継がれ，門徒たちが一揆を起こすこともあった。

③時宗（じ）(13世紀後半〜)⇒仏宗・他力本願

A　**一遍**（いっぺん）〔智真（ちしん）〕(1239〜89年)⇒**遊行上人**（ゆぎょうしょうにん）・**捨聖**（すてひじり）

伊予国（いよのくに）の地方武士の子に生まれる。当初は天台宗を学び，のち**時宗**を開く。中心寺院は清浄光寺（しょうじょうこうじ）〔遊行寺〕(相模国)。

☆著書や経典は死の直前に焼却。江戸時代に『**一遍上人語録**』がまとめられる。

B　**遊行**（ゆぎょう）

一遍は，浄土信仰の先駆者であった空也(平安時代)の影響を強く受け，彼と同じように全国を巡り歩いた。

C　**踊念仏**（おどりねんぶつ）・**賦算**（ふさん）

一遍は，信心・不信心に関係なく，ただ念仏を唱えさえすれば救われると説いた。そして，念仏を唱えながら踊ったり，念仏札を配ったりしながら，弟子たちと各地を回った。

☆信者には都市下層民も多く含まれ，時衆と呼ばれる。

④臨済宗（12世紀末～）⇒禅宗・自力開悟

A　**栄西**

備中国（岡山県）の神職の子に生まれる。比叡山延暦寺で修行後，宋に２度渡航し，帰国して**臨済宗**を開く。中心寺院は**建仁寺（京都）**。主著は『**興禅護国論**』『出家大綱』『**喫茶養生記**』。

B　看話禅

公案と呼ばれる禅問答を考え悟りに至る方法論は，自律的な武士の気風と合致し，とくに**鎌倉幕府・室町幕府に積極的に受け容れられた。**

⑤曹洞宗（13世紀前半～）⇒禅宗・自力開悟

A　**道元**

京都の上級貴族の子に生まれる。比叡山延暦寺で修行後，宋に渡航し，帰国して**曹洞宗**を開く。中心寺院は**永平寺（越前国）**と。主著は『**正法眼蔵**』。

☆弟子の懐奘が『正法眼蔵随聞記』を残す。

☆鎌倉後期に瑩山紹瑾が総持寺（能登国，現在は横浜市）を開山。

B　黙照禅⇒**只管打坐**

道元は，ひたすら坐禅に打ち込めば誰もが悟りの境地に達することができると説き，「人々皆仏法の器なり」という言葉を残した。

C　身心脱落

ひたすら坐禅することによって身も心も束縛から解き放たれ，ありのままの境地に至ることができる，とした。

D　修証一等〔修証一如〕

坐禅の修行は単なる悟りの手段ではなく，修行そのものが悟りの証であるとした。

⑥日蓮宗〔法華宗〕(13世紀半ば〜)⇒題目宗・法華経至上主義

A　**日蓮**

安房国の漁民の子に生まれる。地元の清澄寺や比叡山延暦寺で学んだ後，**日蓮宗〔法華宗〕**を開く。中心寺院は**久遠寺(甲斐国)**。主著は『**立正安国論**』『開目鈔』『勧心本尊鈔』。

☆『立正安国論』は得宗の北条時頼(もと５代執権)に提出，政治批判の罪で伊豆国に流された。他の２著書は佐渡国配流後に執筆。

B　**唱題⇒題目「南無妙法蓮華経」**

日蓮は，『**法華経〔妙法蓮華経〕**』だけが，末法の世を救う釈迦の究極の教えを伝える唯一の経典であると説いた。

☆唱題により，永遠の真理の象徴である久遠実成の仏と出会い，誰もが現世に浄土を見て，即身成仏できるとした。

C　**四箇格言・折伏**

「念仏無間，禅天魔，真言亡国，律国賊」という激しい他宗批判と，強引な自宗への勧誘を行った。

D　法華経の行者

日蓮は，他宗批判だけでなく権力者への提言も遠慮なく行ったので，２度流罪となるなど，強烈な迫害・弾圧にあった。しかし，そもそも『法華経』に「これを広めようとする者は法難を受ける」とあったので，それに負けず教えを実践し広める，という使命感を強くもつようになった。

☆そういった姿勢は弟子たちにも引き継がれ，鎌倉・京都の武士や商工業者の信者を増やした。とくに室町時代の京都では町衆が**法華一揆**を組織した。

⑦その他の宗教

A　**旧仏教の革新**（新仏教の興隆（こうりゅう）による反省）

新仏教を批判，**戒律の尊重（そんちょう）**を唱え社会事業も実施。

あ　**法相宗（ほっそうしゅう）**

貞慶（じょうけい）〔解脱（げだつ）〕

☆山城国笠置寺（かさぎでら）を中興（ちゅうこう），『興福寺奏状（そうじょう）』を著し法然の専修念仏を攻撃。

い　**華厳宗（けごんしゅう）**

高弁（こうべん）〔明恵（みょうえ）〕

☆京都栂尾（とがのお）に高山寺（こうざんじ）を開山，『摧邪輪（ざいじゃりん）』を著し法然の専修念仏を攻撃。

う　**律宗**

俊芿（しゅんじょう）〔我禅〕

☆京都に泉涌寺（せんにゅうじ）を開山，天台・真言・禅・律の兼学の道場とする。

叡尊（えいそん）〔思円（しえん）〕

☆奈良の西大寺を再興，戒律の復興を進め真言律宗を開く。また，自伝『感身学生記（かんじんがくしょうき）』を著す。

☆蒙古襲来に際して異国調伏（ちょうぶく）の祈禱を行い，“興正菩薩（こうしょうぼさつ）”と呼ばれる。

忍性（にんしょう）〔良観（りょうかん）〕

☆**奈良**に**北山十八間戸（きたやまじゅうはっけんど）**を建て，らい病患者を救済。

☆のち鎌倉の極楽寺（ごくらくじ）に入り，慈善（じぜん）事業に努めた。

B　**修験道（しゅげんどう）**の隆盛

天台宗・真言宗のもとに組織され発展。

☆天台系は本山派，真言系は当山派という。

C　**伊勢神道（しんとう）**〔度会（わたらい）神道〕→根本経典として『神道五部書』を作成

伊勢神宮外宮（げくう）の神官**度会家行（いえゆき）**が**反本地垂迹説（はんほんじすいじゃくせつ）〔神本仏迹説（しんぽんぶつじゃくせつ）〕**を唱え，『**類聚（るいじゅう）神祇本源（じんぎほんげん）**』を著す。神祇信仰が神道という宗教に成長。

☆本地垂迹説をとる山王一実（さんのういちじつ）神道（天台宗系）や両部（りょうぶ）神道（真言宗系）と対立。

４　室町・安土桃山時代の宗教

①室町時代の宗教

A　**臨済宗**

室町幕府の保護のもとで発展。のち幕府衰退とともに没落。

あ　**初代将軍足利尊氏・直義**

帰依していた**夢窓疎石**の勧めで全国に**安国寺・利生塔**，京都に**天龍寺**を造営。

い　**３代将軍足利義満**

南宋の**官寺の制**に倣い，**五山･十刹**を制度化しその下に諸山を置いた。また，僧侶を取締る**僧録司**を相国寺に設置，初代僧録には**春屋妙葩**が就任した。

う　**京都五山**

南禅寺（別格上位），天龍寺（１位），相国寺（２位），建仁寺（３位），東福寺（４位），万寿寺（５位）

え　**鎌倉五山**

建長寺（１位），円覚寺（２位），寿福寺（３位），浄智寺（４位），浄妙寺（５位）

お　**五山文学**

朱子学研究・漢詩文の創作などで，禅の経典などと合わせ**五山版**として出版された。

☆五山僧の中には，幕府の政治・外交へ参与したり，水墨画製作などの文化活動に携わったりする者も多数あった。

か　**林下**

より自由な活動を求め，さかんに民間布教を行った禅宗の在野的諸派。

☆臨済系⇒**大徳寺**の**一休宗純**，**妙心寺**など

☆曹洞系⇒永平寺，総持寺など

B　浄土宗

朝廷と結び京都で勢力を拡大後，東国へ進出。

C　**浄土真宗〔一向宗〕**

本願寺派が勢力を拡大し，北陸・東海・畿内の各層に浸透。応仁の乱後，**本願寺８世蓮如**が**越前国吉崎**を拠点に布教，**門徒**集団が地域ごとに結束し強大化，各地で**一向一揆**が発生した（加賀・越前・伊勢長島・三河など）。

D　時宗

芸能・文芸面で活躍する将軍側近の**同朋衆**を輩出した。

☆**観阿弥・世阿弥（猿楽能）**，**善阿弥**（作庭，山水河原者の代表），能阿弥（水墨画・連歌），立阿弥（立花）など**阿弥号**を名乗る。

E　**日蓮宗〔法華宗〕**

戦闘的な布教により東国から西日本各地へ勢力を拡大。15世紀半ば，**日親**は**６代将軍義教**に**『立正治国論』を提出**，焼鍋冠りの拷問にあうが京都の町衆への布教に成功，のち**法華一揆**が結ばれることとなった。

F　**唯一神道**〔吉田神道〕

伊勢神道の影響を受けた京都吉田神社の神官**吉田兼倶**が創始。本地垂迹説に基づく両部神道に対し，反本地垂迹説の立場で神道を中心に儒教・仏教を取り入れた総合的な学説を展開。

②キリスト教の伝来⇒イエズス会〔耶蘇会〕宣教師の活躍

A　背景

16世紀，ドイツ人ルターやフランス人カルヴァンの宗教改革（＝プロテスタント〔新教〕）に対する**カトリック〔旧教〕**の対応。1534年，イグナティウス＝ロヨラやフランシスコ＝ザビエルが**イエズス会**を結成。

B　**フランシスコ＝ザビエル（スペイン人）**の布教

1549年，マラッカで洗礼した日本人アンジロー〔ヤジロー・弥次郎〕の案内で，トレス（スペイン人）とともに**鹿児島**に上陸，島津貴久に布教許可を得る。

☆のち松浦隆信の平戸，**大内義隆**の**山口**（周防国）を経て京都に入るが，将軍・天皇ともに布教許可を得られず，約２年間山口や大友義鎮〔宗麟〕の府内（豊後国）など西日本各地に布教後，日本を退去。

C　後継者たちの布教⇒『**耶蘇会士**(やそかいし)**日本通信**』によりイエズス会に報告

あ　ガスパル＝ヴィレラ(ポルトガル人)

13代将軍義輝(よしてる)の許可を得て畿内へ布教，堺へも住む。

い　**ルイス＝フロイス**　(ポルトガル人)

織田信長・豊臣秀吉の庇護(ひご)を受けたがバテレン〔宣教師〕追放令で退去。再来日し，『**日本史**』を著したのち長崎で死去。

う　オルガンティーノ　(イタリア人)

織田信長の庇護を受け，京都に**南蛮寺〔教会堂〕**・安土(近江国)に**セミナリオ**〔神学校〕を設立。

え　**ヴァリニャーニ**　(イタリア人)

有馬(肥前国)にセミナリオを合併，豊後府内に**コレジオ**〔大学〕を設立。**1582年には天正遣欧使節派遣を提案**し，インドのゴアまで同行。90年，使節の帰国時に再来日し，**活字印刷機を伝えた。**

D　**キリシタン大名**⇒多くは貿易利潤のために入信，**ローマ字印章**(いんしょう)**〔印判〕**を用いる。

大村純忠(すみただ)，**有馬晴信**(はるのぶ)，**大友義鎮**(よししげ)**〔宗麟〕**(そうりん)，黒田孝高(よしたか)〔如水〕(じょすい)，小西行長(ゆきなが)，**高山右近**(うこん)ら。

E　**天正遣欧使節(1582～90年)**⇒ヴァリニャーニの勧め

九州の**大村・有馬・大友の三大名**が，**伊東マンショ・千々石**(ちぢわ)**ミゲル**・中浦ジュリアン・原マルチノの４少年を派遣。

☆ローマ教皇(きょうこう)グレゴリウス13世に謁見(えっけん)し，1590年に帰国するが，すでに日本では豊臣秀吉によりバテレン〔宣教師〕追放令が発布されており，布教活動は著(いちじる)しく制限された。

５　江戸時代の宗教

①キリスト教の禁止

A　**理由⇒統一的支配の障害**

ポルトガル・スペインの侵略に対する懸念(けねん)，信者の団結・抵抗の強さを恐れる。

☆信者は17世紀初めで約70～75万人。

B　推移

1609年　マードレ=デ=デウス号事件

☆キリシタン大名有馬晴信(ありまはるのぶ)が長崎でポルトガル船を撃沈(げきちん)。

1612年　**幕領に禁教令〔キリスト教禁止令〕**を発布

☆岡本大八(だいはち)事件が契機(けいき)となる。

1613年　**慶長遣欧使節**（～20年）

☆**伊達政宗が支倉常長を派遣**。フランシスコ会士ルイス=ソテロが同行。

全国に禁教令を発布

1614年　**高山右近**(うこん)ら300人余りのキリシタンをマニラ・マカオに追放

☆高山右近はもとキリシタン大名。翌年マニラで病死。

1622年　**元和(げんな)の大殉教(だいじゅんきょう)**

☆**長崎**で宣教師・信徒ら**55名**を処刑。

1630年　禁書令

☆３代将軍家光が洋書の輸入を禁止。

C　**島原の乱**〔島原・天草(あまくさ)一揆〕**（1637～38年）**

天草四郎時貞〔益田(ますだ)時貞〕を中心とする約３万８千人の**キリシタン農民**や牢人が蜂起(ほうき)，原城跡(はらじょうあと)に立てこもった。

あ　原因

松倉勝家（肥前国島原城主）と寺沢堅高(かたたか)（肥後国天草領主）による，過酷(かこく)な年貢徴収とキリスト教徒弾圧に領民が反抗。

☆以前，島原半島は有馬晴信，天草諸島は小西行長の支配下にあったため，旧キリシタン大名領としての風潮が残っていた。

い　結果

九州の外様など約12万人を大動員し，譜代の板倉重昌（京都所司代板倉勝重の子）が指揮にあたったが失敗。**老中松平信綱**〔知恵伊豆〕が出陣し，オランダ船の援護も得てようやく鎮圧した。

☆乱後，松倉家と寺沢家は改易。

う　意義

幕府権力のさらなる集中と，**鎖国政策促進の契機**となった。

D　禁教政策の強化

あ　**踏絵**

九州北部を中心に**絵踏**を実施して改宗を強制したが，一部の信者は迫害にも屈せず殉教するものや，秘かに信仰を維持する**潜伏キリシタン**〔**隠れキリシタン**〕として残存した。

☆曹洞宗の禅僧鈴木正三らもキリシタンの改宗に努める。

い　**寺請制度**〔**寺檀制度**〕

寺院に一般民衆を**檀家**〔檀徒・檀那〕として所属させ，キリシタンでないことを証明させる制度。1640年，**宗門改役**を設置して**宗門改め**を実施。結婚・奉公・旅行などに際し檀那寺が**寺請証文**〔宗旨手形〕を発行，檀家を監視した。

☆幕府・諸藩は**宗門改帳**〔宗旨人別改帳〕を作成，**寺院を通しての民衆支配**を進めた。のち人別改と合わせ**宗門人別改帳**となり，戸籍の役割を果たした。

②寺社の統制

A　禁教

キリスト教の他にも，日奥を祖とする**日蓮宗不受不施派**を禁止。

☆神道・陰陽道・修験道などは仏教に準じて容認。

B　領地

朱印地（将軍の朱印状により安堵），黒印地（旗本･大名の黒印状により安堵）など約40万石。

C　法度(はっと)

仏教諸宗の本山となる門跡寺院に皇子や宮家・摂家の子弟が入寺したことから，幕府は門跡も朝廷の一貫とみなして統制した。

1601年～**寺院法度**〔諸宗諸本山法度(しょしゅうしょほんざんはっと)〕

☆**各宗派ごと**に出し，**本山**の地位を保障して**末寺(まつじ)**を組織させる**本末制度**を実施した。

1665年　諸宗寺院法度(しょしゅうじいんはっと)

☆**各宗派共通**の，寺院・僧侶統制令。

諸社禰宜神主法度(しょしゃねぎかんぬしはっと)

☆**神社・神職の統制令**。唯一神道の吉田家を本所として白川家とともに統制にあたらせた。

☆陰陽道は，公家の土御門(つちみかど)家が全国の陰陽師(おんみょうじ)を配下に置いた。

D　行政

将軍⇒**寺社奉行**⇒各宗派の**本山**⇒**末寺(まつじ)**⇒檀家(だんか)

☆修験道は，天台系の本山派は聖護院(しょうごいん)門跡が，真言系の当山派は醍醐寺三宝院(だいごじさんぼういん)門跡が本山として山伏(やまぶし)を支配した。

E　結果

仏教・神道ともに，独立した宗教としての活力(かつりょく)を失う。

F　**黄檗宗(おうばくしゅう)**の伝来(17世紀半ば)

禅宗(ぜんしゅう)の一派。明から来日した**隠元隆琦(いんげんりゅうき)**が伝える。

☆本山は山城国宇治(うじ)の**万福寺(まんぷくじ)**。

６　明治時代の宗教界

①神社神道(祭祀を担う超宗教)

A　国家が手厚く保護

☆**神社神道**を宗教として扱わず，天皇の神格化・絶対化に利用(＝**国家神道**)。

B　三重県の**伊勢神宮**(内宮・外宮)を頂点とする国家的神社制度

あ　全国の神社を**官社・諸社**に大別

☆さらに官社を官幣社・国幣社に大別。

☆東京府の**靖国神社**(もと招魂社)は**別格官幣社**とされ，各地の招魂社はのち護国神社と改称。

い　皇室行事を中心に**祝祭日**を設定

☆**紀元節**(２月11日＝神武天皇即位の日)，**天長節**(11月３日＝明治天皇の誕生日)など。

C　**神道国教化の挫折**

1868年　**五榜の掲示による切支丹邪宗門の禁止**

浦上信徒弾圧事件〔浦上崩れ〕(1868～73年，**長崎県**)

☆1865年の大浦天主堂落成時，潜伏キリシタンたちがフランス人宣教師に信仰を告白。江戸幕府に続き明治政府もこれを弾圧。

政体書による**神祇官**の再興

神仏分離令〔神仏判然令〕

☆王政復古・祭政一致の方針から従来の神仏習合〔神仏混淆〕を否定，神社を寺院から独立させ**廃仏毀釈**の嵐が吹き荒れる。

☆仏教擁護の一揆である護法一揆も発生。

1869年　版籍奉還後に神祇官が太政官と並立・上位とされる

宣教使の設置

1870年　**大教宣布の詔**

☆神道国教化を目指し宣教使に布教を命じるが，仏教側の抵抗により失敗に終わる。

1871年　廃藩置県後に神祇官を**神祇省**に格下げ

1872年　神祇省を**教部省**と改称

1873年　**切支丹禁制高札廃止→キリスト教信仰を黙認**（もくにん）

☆浦上信徒弾圧事件で列国の抗議を受けて対処。各地に流罪となっていた信徒たちも釈放。

☆以後，キリスト教会は布教のかたわら教育・福祉活動や廃娼運動などに成果を上げていく。

1877年　教部省，内務省に合併される

☆国民の教化をあきらめ，祭祀と宗教を分離し**国家神道**を確立。

1889年　**大日本帝国憲法発布**

☆法律の範囲内で，臣民の信教の自由が認められる。

②教派神道（政府公認の神道系新宗教13派）

江戸時代後期以降に創始された，**黒住宗忠**（くろずみむねただ）**の黒住教（岡山県）**，**中山みきの天理教（奈良県）**，**川手文治郎**（かわてぶんじろう）**〔赤沢文治**（あかざわぶんじ）**〕の金光教**（こんこう）**（岡山県）**などを順次公認。

☆経典をもち行（ぎょう）を重んじ，生神（いきがみ）とされる教祖が現世利益（げんぜりやく）の祈禱を行う。

③その他の神道系新宗教

出口なおの大本教（京都府）など。

☆のち娘婿（むすめむこ）の出口王仁三郎（おにさぶろう）が発展させる。

④仏教の復興

浄土真宗の**島地黙雷**（しまじもくらい）や井上円了（えんりょう），清沢満之（きよざわまんし）らの活躍で，廃仏毀釈による打撃から復興。